

第五十六回  
帝國議會  
貴族院

# 救護法案特別委員會議事速記第一號

## 委員氏名

委員長 侯爵佐佐木行忠君  
副委員長 阪本鈺之助君

侯爵大久保利武君  
男爵木越 安綱君  
子爵野村 益三君  
田村 新吉君  
若尾謹之助君  
大谷 尊由君

昭和四年三月二十日(水曜日)午後一時十七分開會

○副委員長(阪本鈺之助君) 只今委員長ガ  
チヨットドコカ用足シニ行カレマシタカラ、  
私代リマシテ開會ヲ致シマス

## 著ク

○政府委員(長岡隆一郎君) 救護法案提出  
ノ理由ニ付キマシテハ、本會議ノ席上ニ於  
テ、秋田政務次官カラ申上ゲタ通りデゴザ  
イマス、我國ノ恤救ノ制度ハ非常ニ古イ沿  
革ヲ持ッテ居リマシテ、既ニ太實令ノ中ニ、  
是ニ關スル規定ガ設ケラレテ居リマシタガ、  
唯其實際ノ狀況ガドレ程ニ行ハレテ居リマ  
シタカ、今日デハ明ラカニナリマセヌガ、

兎モ角モ此老者ヲ養ヒ、幼者ヲ慈シムト云  
フ精神ハ、此太實令ノ中ニ明瞭ニ現レテ居  
ルト思ヒマス、續イテ此白河樂翁公ノ七分  
積金制度ノ關係法令ヲ見マシタガ、矢張り  
此救恤ノ制度ガ現レテ居ルノデアリマス  
ガ、其精神ヲ受繼イデ現レタト思ハレマス  
ルノガ、即チ現行ノ恤救制度デアリマス、  
明治四年ノ太政官達、捨子養育米給與方、  
及明治七年ノ太政官達、恤救規則デアリマ  
ス、是ハ今日マデ現行法トシテ生キテ居ル  
譯デアリマスルケレドモ、申スマデモナク  
其規定ノ内容ハ極メテ不備デアリマシテ、  
今日ノ實情ニ適シナイヤウナコトニ相成  
テ居リマス、是ハ我國ノ特殊ノ美風デアリ  
マスル家族制度、若クハ隣保相助ノ風ト云  
フコトニ依テ是等ノ被救護者ヲ或ル程度マ  
デ救濟シ得ルコトニナッテ居リマシタケレ  
ドモ、經濟事情ノ變遷ニ伴ヒマシテ家族制  
度ニ依テモ亦隣保相助ノ美風ニ依リマシテ  
モ救護ヲ受ケ得ラレナイヤウナ窮民ガ今日  
デハ多數ニ發生シテ參リマシテ、ヨク新聞  
等ニ出マスル或ハ一家ガ生活難ノ爲ニ自殺  
イタシマシタカ、或ハ親子ガ無理心中ヲ  
致シタカ云フヤウナ、悲惨ナル出來事ガ後  
ヲ絶ツニ至ラナイノデアリマシテ、本法ニ依

テ救護ヲ受ケマスル者ハ勞働能力ノ無イモ  
ノニ限ルト云フコトヲ根本ノ趣旨ト致シテ  
居リマシテ、第一ハ六十五歳以上ノ老衰者、  
之ハ六十五歳以上ニ達シテ居リマシテモ勞  
働能力ガアリ、若クハ資産アル者ハ救助ヲ  
致シマセヌ、六十五歳以上ノ年齢ニ達シテ  
尙ホ且勞働能力ナク、資産ノナイ者ハ、又  
十三歳以下ノ幼者、妊産婦、不具癱疾、疾病、  
傷痍等ニ依テ勞働ヲ爲スコトノ出來ナイ  
者、是等ノ者ハ勿論扶養義務者ガゴザイマ  
スレバ扶助ヲ致シマセヌシ、隣保相助ノ美  
風ニ依テ助ケ得ルモノハソレニ依リタイト  
云フノハ勿論デアリマスケレドモ、自己ノ  
責任ニ依ラザル狀況ニ依テ斯カル窮狀ニ  
陥ッテ居ル者ガ此中ニハ随分多數ヲ占メテ  
居ル譯デゴザイマスカラ、是等ノ勞働能力  
ノ全然ナイ者、若クハ勞働ヲ爲スニ著シク  
支障ノアル者ニ限り、而モ貧困ノ爲ニ生活  
スルコトノ出來ナイ場合ニ救助ヲ致スト云  
フコトニ止メマシテ、所謂濫救ノ爲ニ情民  
ヲ養成スルト云フヤウナ弊害ヲ避ケマシテ、  
眞ニ必要已ムベカラザル者ダケヲ公費ニ依  
テ救助イタスト云フノガ本案ノ趣旨デゴザ  
イマス、尙ホ且之ニ付キマシテハ、其費用  
ハ或ハ國費地方費等ノ關係ニ付キマシテ

ハ、何レヲ多クシ、何レヲ少クスルカト云  
フヤウナコトニ付キマシテハ色々ノ議論モ  
ゴザイマスルケレドモ、本案ノ實行ニ當リ  
マシテハ、大體二分ノ一ヲ國庫ヨリ支出イ  
タシ、大體四分ノ一ヲ府縣ヨリ支出シ、殘  
ル約四分ノ一ヲ市町村ニ負擔サセタイト云  
フ考ヘデゴザイマス、是ハ現行軍事救護法  
ノ如キハ全額國庫負擔ニナッテ居リマスル  
ケレドモ、此軍事救護法、若クハ癩兵院法  
ノ如キモノハ國家ニ功勞アル者、若クハ功  
勞ノアツタ者其家族ト云フヤウナ者ヲ恤救  
スル意味デアリマスルカラシテ、本法トハ  
聊カ趣キヲ異ニ致シテ居リマスル、ノミナ  
ラズ市町村ニハ何等ノ負擔ヲ掛ケナイヤウ  
ナ仕組ニ致シマス時ニハ、先程申上ゲマシ  
タ濫救ノ弊ヲ生ジテ情民ヲ養成スル心配モ  
ゴザイマスルカラ、地元ノ市町村ニ對シマ  
シテ約四分ノ一ノ負擔ヲ致サセルト云フコ  
トハ、是ハ已ムヲ得ザルコトデハナイカト  
思ヒマス、唯地方費ノ増加ト云フコトニ付  
テハ返スト、モ注意シナケレバナラヌ問題  
デゴザイマスルガ、本會議ノ席上ニ於テチ  
ヨット申上ゲマシタヤウニ、本法ニ依テ要シ  
マスル所ノ全體ノ費用ハ一年約八百万圓、  
其內國庫ニ於テ約四百万圓負擔イタシマシ

タナラバ、地方費ノ負擔ハ府縣市町村ヲ合シテ四百萬圓ニ過ギマセヌ、先程申上デマシタ明治七年ノ恤救規則ニ依リマシテ、地方費ニ於テ現在二百萬圓負擔ヲ致シテ居ル譯デゴザイマスカラ、將來本法ノ施行ニ依テ地方費ノ負擔ヲ増シマスルノハ、府縣市町村ヲ合計イタシマシテ二百萬圓ニ過ギナイト云フヤウナ狀況デゴザイマス、尙ホ又救護ノ種別ト致シマシテハ生活扶助、醫療、助産生業扶助、此ノ四種ト致シテ居リマスルガ、就中必要ナルモノハ申上デルマデモナク生活扶助ト醫療扶助、斯ウ云フコトニ相成ル譯テゴザイマス、以上ハ法案ノ大體ノ説明デゴザイマス、繰返シテ申上ゲマスルヤウニ、古來ノ美風デアル家族制度及隣保相助ノ情誼ハ是ヲ尊重シ、更ニ進んで現在社會ノ實情ニ適應セル制度ヲ確定シテ其及バザル點ヲ補ヒ、以テ國民生活ノ不安ト思想ノ動搖ヲ防止スルニ努メタイト云フ趣旨ガ本案提出ノ趣意ニ外ナラヌノデゴザイマス、詳細ノ點ニ付キマシテハ御質問ニ應ジマシテ又申上ゲタイト考ヘテ居リマス

致シマス、又追々御質疑ヲ申スコトニナルデアラウト存ジマスガ大體ニ於テハ此今度ノ法律ハ救貧制度デアルト云フコトニナルヤウデアリマスガ、矢張り此法案ヲ見マスト、從前ノ今度御廢シニナラウト云フ四ツノ太政官達、若クハ太政官布告ト云フヤウナモノ、繼承、即チ後繼ギニナルト云フコトガ主ニナツテ居リマシテ、ソレハ近頃言フ社會政策ト云フヤウナモノガ加味セラレ、ソレカラ各地方ニ、多クハマア市デアリマセウガ、市ニ於テ方面委員ト云フヤウナモノヲ救護施設ト云フコト、シテ、此法律ガ認メルト云フヤウナコトガ、マア此法律制定ノ重ナ骨子ニナツテ居ルカト思フノデアリマスガ、只今參考ニ頂戴イタシマシタ英獨佛ノ救貧法規トカ、或ハ英獨ノ救貧法トカ云フヤウナモノヲ、ザットデモ一讀イタシマスレバ、餘程得ル處ガアラウト思ヒマスケレドモ、チヨット今ソレヲ開イテ見ル迄ノ時間ヲ持テマセヌガ故ニ、餘リ御煩ラハシイ譯デゴザイマスガ、大體ニ於テ御尋ネイタシマスガ、政府ガ此案ヲ御出シニナルニ付テ、救貧ト云フコトハ、私共ニ言ハセマスト、今度出マス法案ハ救貧ノ一部ニハ違ヒナイケレドモ、救貧ト云フ名ヲ下スニハ少シ鳥辭ガマシクハナイカ、矢張りドウモ是マデ現行規則ノ四ツノモノヲ少シ完全ニシタト云フヤウナ意味デ、即チ第

一條ノ四號ニアル處ノ「不具癡疾、疾病、傷痍其ノ他精神又ハ身體ノ障礙ニ因リ勞務ヲ行フニ故障アル者」ト云フコトダケガ、是マデヨリハ餘程幅ガ廣クナルノデアリマスルガ、之ヲ以テ救貧制度ト稱スルト云フコトハ、少シマダ不十分デナイカト思ヒマスガ、此立法ノ精神トシテ、是デ先ツ當分ハ救貧制度ト稱シテ、我國ノ救貧制度ハ斯ウ云フモノデアルト云フコトヲ言フテ恥カシクナイト云フ御感ジガアルノデアリマスカ、實ハ斯ウ云フコトガシタイト思、タケレドモ、大變金モカカルシ、又現在ノ狀況デハ出來ナイカラ、先ツ之ヲ以テ救貧制度ノ一部トスルト云フ考ヘデ御立案ニナツタノデアルカ、其點ニ付テ一ツ御説明ヲ承リタイノデアリマス、ソレカラ次ニハ現在モ殆ド明治維新ノ始メカラ行ハレテ居ル所ノ、此ノ四ツノ法令ニ依テ、現在其救助ヲ受ケテ居ル所ノ人々及其費用ト云フヤウナコトハ此本邦救貧制度概要ト題シタ印刷物ヲ御示シ下サレタ、十四頁、十三頁邊リヲ一寸見テ居リマスガ、之デ盡キテ居ルノデアリマスガ、此參考書類ノ中デマダ何處ゾ見ル所ガアリマスルカト云フコトヲ一寸御教示ヲ願ヒタイ、私共ノ知ラント欲スル所ハ此法令、四ツノ法令ニ依テ救護ヲ受ケテ居ル者ガドノ位人員ガアルカ、ドノ位金ガ掛テ居ルカト云フヤウナコトガ知リタイ

ノデアツテ、此チヨット十三頁ノ所ヲ見マスト、大正十三年度迄ニ漸増シテ約九倍ニナツテ居ルト云フヤウナ事ガ書イテアル、此調子デ行ケバマダゴドノ殖エテ行クカモ知レマセヌガ、サウ云フヤウナコトガ沿革的ニ之ヲ細カニ見マスレバ能ク分ルヤウニ出來テ居ルノデアリマスガ、若シ此中ニナイ、ソレハ斯ウ云フコトデアルト云フヤウナコトヲ御示シ下サルコトガ出來レバ此際御示シヲ願ヒタイ、又書類モ御示シヲ願ヒタイ、多分是迄御調ベニナツタノデスカラ、何處ニドウ云フコトガ書イテアルト云フコトガ分ルノデアリマセウガ、能ク御教示ヲ願ヒマス

○政府委員(長岡隆一郎君) 只今ノ御質問ノ第一點、即チ救貧制度トシテ今回ノ提案ヲ致シマシタ救護法ヲ以テ全部ヲ盡シテ居ルカ、之ニ付キマシテハマダ是以外ニモ多少ノ救貧制度ノ中ニ採リ入レナケレバナラヌモノガアルカモ存ジマセヌ、併シ申上ゲル迄モナク救貧ハ未デゴザイマシテ、出來ルナラバ防貧ト云フ制度ニ依テ貧困者ノ出來ナイヤウニ豫ジメ防グト云フコトガ社會政策ノ本義デナケレバナラヌト考ヘテ居リマスガ、併シ如何ニ此防貧ノ制度ヲ確立イタシマシテモ、自ラ其網ニ漏レテ極貧ノ境遇ニ陥ルト云フヤウナ者ガ出來ルト云フコトハ、是ハ今日ノ經濟組織ノ上ニ於テハ

已ムヲ得ザルコトデアル、此意味ニ於テ此救貧ト云フコトガ必要ニナルコトト考ヘマスルガ、結局問題トナリマスルコトハ本法ニ於キマシテハ労働能力ノ全然ナイ者、若クハ労働能力ノ著シイ缺陷ノアル者ト云フ者ダケヲ救済致シテ居ル譯デアリマス、是以外ニ労働能力ガアリ、労働ノ意思モアルガ、労働ノ機會ヲ得ナイ者、即チ自分ハ労働ヲ致シタイ意思ガアリ、又労働ヲ致ス能力モアル、併ナガラドウシテモ労働ノ機會ヲ得ナイ、言ヒ換ヘテ申シマスレバ、失業者デアル、此失業者ヲ救貧ノ中ニ入レルカ、入レナイカト云フコトガ問題トシテ殘ルノデゴザイマシテ、之ヲ入レル時ニハ問題ハ餘程廣クモ相成リ、又費用モ増大ヲ致スノデゴザイマスケレドモ、此労働ノ意思アリ労働ノ能力ガアツテ、労働ノ機會ヲ得ナイ者ニ付キマシテハ、是ハ他ノ法制、即チ失業防止若クハ失業救済ト云フヤウナ制度ニ依テ、相當救済ヲスベキモノデアツテ、所謂救貧ト云フ中ノ範圍ニハ加ヘナイ方ガ適當デアラウト考ヘタ次第デゴザイマシテ、唯救貧ト申シマスルト所謂其貧者ヲ全部救済スルト云フヤウナ意味ニ間コヘマスケレドモ、是ハ貧乏人ト云フコトヲ抽象のニ申シマスト、是ハ限リガナイ、所謂貧富ト云フコトヲ比較シテ申シマス時ニハ是ハ隨分貧乏人ノ數ハ澤山多イ、決シテ冗談ヲ申ス譯ヂヤ

アリマセヌケレドモ、私共モ其貧者ヘ中ニ這入ルカモ知レマセヌノデアリマスガ、此本法ニ謂フ貧者ハサウニ云フ意味デナクシテ、所謂其生活ノ最低限度ヲ維持スルコトノ出來ナイ詰リ食事ニスレバ醫學上ノ最低ノ「カロリー」サヘモ得ルコトノ出來ナイ、衣食住共ニ必要ナモノ、最低限度ヲ得ザル者之ヲ極貧者ト申シテ居リマスガ、極貧者ノ範圍ニ屬スル者ヲ救済シタイト云フ趣旨デアリマシテ、常識的ニ言フ所謂貧者、貧乏人ト云フ者ヲ全部網羅スル趣旨デハナイノデアリマシテ、要スルニ此貧乏線ト云フコトヲ學者ガ申シテ居リマスガ、貧乏線以下ニ居ル極貧者ヲ救済シタイト趣旨デアリマスカラ、其意味カラ申シマスルト他ニ洩レタ者モ出來テクル譯デゴザイマスルガ、本案ノ趣旨ハ只今申上ダタヤウナ趣旨ニ外ナラヌノデゴザイマス、第二ハ現在ノ太政官達、太政官布告等ノ施行ノ狀況ニ付キマシテハ、他ノ政府委員カラ御説明申上ルコトニイタシタイト思ヒマス

○政府委員(大野綠一郎君) 第二ノ御質問ニ對シテ御答イタシマス、御配リイタシマシタ數字ハ、是ハ大正十三年度末ノ現在デアリマシテ、此中ニハ歷年ノ沿革の二人數ヲ明示シテ居リマセヌ、之ハ別ニ御手許ニ差上ダリ積リデゴザイマス、ソレデ只今此處ニアリマスルノ一申上ダマスルト、

此處ニアリマスル大正十一年度ガ救助人員一万七千七百七十九人デ、十三頁、之ハ大正十三年末デゴザイマスガ、只今最も新シキ統計デ昭和二年度ノ調ニ依リマスルト、一箇年ニ於キマスル被救助人員ガ一万五千人デゴザイマシテ、總額五十二万七千六百六十圓ト云フコトニナツテ居リマス、而シテ國費ノ總額ガ六万三千八百二十七圓、殘リガ地方費デゴザイマシテ、四十二万五千五百九十五圓ト云フコトニナツテ居リマス、其外府縣等ノ地方費ニ於テ支出イタシマスル此恤救規則ニ大體該當スルモノヲ合セマシテ約二百萬圓ニナツテ居リマス、デ、ソレダケハ別途印刷物ニ致シテ居ル物モアリマスカラ、御手許ニ差上ダルコトニ致シマスカラ、御本影之助君 其別途印刷ト稱セラレル物ヲ拜見シマシタラ略、分リマセウト存ジマスガ、私共ノ希望ハ斯ウ云フ事ガ見タイノデアリマス、明治四年ノ太政官達第三百號ニ依ツテ、現ニ救助ヲ受ケテ居ル者ノ最近ノ年度ニ於ケルモノガドレダケアルカ、其金ハドレ程掛テ居ル、又明治六年ノ太政官布告第七十九號ニ依ツテ救助セラレテ居ル者ガ、今申シテ居ル通りノ事柄ハドウデアルカ、其次ハ明治六年ノ太政官布告第百三十八號、其次ハ明治七年ノ太政官達第百六十二號ノ恤救額、是等ニ付テノ法令ガ現ニ行ハレテ居ル、其給セラレテ居ル金額、且

ツ其國庫デ幾ラ出シテ居ル、府縣ガ幾ラ出シテ居ル、市町村ガ幾ラ出シテ居ルト云フヤウナ事、ソレヲ出來得ベクンバ最近三箇年度位ヲ御提示シテ頂キタイト思ヒマスカ、非常ニ御手間ガ掛リマスナラバ一箇年度デモ宜シイ、兎ニ角此四ツノ法令毎ニ、此事ニ付テハドノ位ノ金ガ出テ居ル、ソレガ府縣ガドレダケ負擔シテ居ル、國ガドレダケ負擔シテ居ル、府縣ガドレダケ、市町村ガドレダケト云フヤウナコトヲ、極ク部門部門ニ一ツ書キ見タイデ宜シイノデアリマスガ、ソレヲ一ツ拜見イタシテ、其注文ニ適スルモノガ御出來ニナツテ居レバソレデ宜シイノデアリマス、ソレカラ第一番ニ長官カラ御示シニナリマシタコトデ略、了解ハ致シマシタガ、此法案ノ第一條ニ列舉シテアル一カラ四迄ノ事柄ハ、皆ガ一家ノ貧者ト云フ譯デハナイ、一家中ノ或ル一人若クハ二人、多ク一人デスガ、一人ガ例ヘバ六十五歳以上ノ老衰者デアルトカ、或ル一人ノ者ガ精神病者デアルトカ云フヤウナ其人ガ一家ガ豊カデアレバ、無論扶養イタシマスルカラ宜シウゴザイマスガ、扶養スルカノナイ一家ニ於テ斯ノ如キ高齢者トカ幼者トカ云フヤウナ者ガアル、若クハ身體ニ障礙ガアツテ勞務ヲ執ルコトガ出來ナイ者ガアルト云フヤウナ時ニ、一家ノ中ノ一部分ノ者ヲ救フト云フコトガ此法案ノ目的ニ

ナッテ居テ、非常ニ子供ガ多イ、極ク貧窮デア  
アル中ニ子供ガ多クテ手モ足モ出ナイト云  
フヤウナ一家ガ貧困デ困ルト云フ者ヲ救フ  
ト云フコトハ此法案デハ出来ナイヤウニ思  
フ、尤モソレヲ悉ク一人ハ精神ガ間違ッテ居  
ルトカ、一人ハ身體ニ障害ガアルトカ云フコ  
トヲ舉ゲテ来レバ一家ノ中ニ二人モ三人モ  
アルカモ知レマセヌガ、別ニ故障ノナイ人  
ハ之ニ預カルコトガ出来ナイノデアアル、詰  
リ一家ガ外カラ見ルト如何ニモヒドイト云  
フノハ此法令デ救フコトハ出来ナイ、之ヲ救  
フノハ救貧デアアル、私ガ考ヘマストト、救貧  
即チ救貧、救貧即チ救貧デアッテ、救貧ヲ十分  
ニヤレバ自ラ救貧ニナッテ、ソコデ遂ニハ貧  
者ノ域ヲ脱スルコトガ出来ルコトモアル、  
防貧ガ徹底スレバ救貧スルコトノ必要ハナ  
イ、防貧ト救貧トハ車ノ兩輪ノ如キモノデ  
アルト思フノデアリマス、ドウシテモ今度  
ノ救護法ニ依ルト、一部分若クハ一ツノモ  
ノヲ救フト云フコトダケデアッテ、國家カラ  
見タ時ニ非常ニ困ル所ノ一家ノ者ヲ救フト  
云フ即チ救貧、救貧ノ目的ト云フモノガ此  
法案ニ依ッテ一部分ハ目的ヲ達シマストルカ  
モ知レマセヌガ、本來ノ救貧ト云フコトニ  
ハ適セヌヤウニ思フ、ソレハ即チ立案者ハ  
此法案ヲ完全ニ實施スレバサウ云フヤウナ  
コトモ幾部分ハ救ヒ得ルト云フ御考ヘデ立  
案ニナッテ居ルカ、ソレハ全ク別ヂヤ、別ヂ

ヤカラ、ソレヲ一ツ考慮シテ居ルカラ何レ  
ハ何カ立法ガ出来ルデアラウトカ、或ハ込  
モ金ガ掛カルカラ防貧ハ問題外ト御考ヘ  
ニナッテ居ルカ、サウ云フヤウナ點ニ付テ、  
モウ一應御説明ヲ願ヒタイ  
○政府委員(大野緑一郎君) 先程ノ統計ノ  
コトハ大體ニ御趣旨ニ添フヤウナ統計ガ出  
來テ居リマスカラ御配リヲ致シマス、ソレ  
カラ第二ノ御質問ニ對シテ御答ヘ致シマス  
ガ、本法ノ立法方ハ貧困ノ爲メトゴザイマ  
スルガ、矢張り貧困デアアルカナイカハ大體  
一ツノ世帯ヲ見マシテ、ソレガ貧困デアアル  
カナイカト云フコトデ決定スルヤウニ致ス  
ヨリ外ハナイト思ヒマスガ、儲テ左様イタ  
シマシテ、本條ニ掲ゲマシタヤウニ、六十  
五歳以上ノ老衰者、或ハ十三歳以下ノ幼者  
ト云フヤウニ限定シテ此資格アル所ノ者ガ  
救助ヲ受ケルト云フコトニ致シマス、御  
示シノヤウニドウシテモ、其資格該當者ダ  
ケシカ救助ヲ受ケナイト云フコトニナリマ  
スルガ、儲テソレニハ其範圍ヲ擴大イタシ  
マシテ、所謂勞働能力ノアル者モ本法ニ依  
テ救護ヲスルト云フコトニ致シマスト、  
非常ニ莫大ナ費用ニ達シマストルシ、一方ニ  
於キマシテハ、本法ノ立法前ガ或ル限、テ  
居ル資格ノ者ヲ救濟スルノデアリマシテ、  
働ラケル者ハ成ルベク働カセルト云フ立前  
ニナッテ居リマスル爲ニ、ドウ致シマシテ

モ、立法方ガ非常ニ範圍ヲ廣ク致シマシテ、  
家族全部ヲ救フト云フコトニ致シマスト  
ト、費用ノ點ナドノ關係モアリマストルノデ、  
マア大體斯フ云ウ風ナ立テ前ニ致シタノデ  
ゴザイマス、從テ若シ全部勞働能力ガア  
テ働ケル者モ此中ニ入レルト云フコトニナ  
テ居ラヌノデゴザイマス

○阪本彰之助君 無論勞働能力ガアッテ、只  
不精デアルトカ懶ケ者デアアルトカ云フガ爲  
ニ、貧乏シテ居ルト云フ奴ヲ救フニハ及ビ  
マセヌケレドモ、種々ナ不幸ガアッテ、家族  
ニ病人モアレバ、幼者モ澤山アル、即チ病  
人幼者ト云フモノハ此法律ニ依ッテ救ハレ  
マセウケレドモ、其爲ニ働ケバ働キ得ルト  
云フ夫婦ト云フヤウナモノガ、一人若ハ二  
人ガ足手纏ヒニナッテ、全ク極貧ニ陥ッテ居  
ルト云フヤウナ場合ニ、此法律ヲ見タ所デ  
ハ、一號カラ四號マデノ何處何處ニ嵌マル  
奴ガ一家ニ二人モ居ルト、サウスルト云フ  
ト所謂足手纏ヒニ多少扶助ガ受ケラレルカ  
ラ、後ノ者ハ其他力ヲ受ケテドウヤラヤッ  
テ行ケル、即チソレガ間接ノ救貧ニナルト  
斯ウ云フマア御趣旨ト解釋シマスガ、若シ  
違ッテ居ラドウゾ：ソレカラチヨット  
是ハ方面ガ違ヒマスガ、明治四年ノ太政官  
達第三百號ト、明治六年ノ太政官布告第百  
三十八號ト云フモノハ棄兒ノコトデアアル、  
棄兒ガ十五歳マデハ米ヲ四斗ヅツ下サルト

云フコトノ違ノヤウデアリマスガ、今度ハ  
棄兒ト云フモノヲ認メテ居リマセヌガ、棄  
兒ト云フモノハ即チ十三歳以下ノ幼者ト云  
フ方ノ中ニ入ルモノトシテ、之ヲ收容ス  
ル場所ハ孤兒院ナドヘ主ニ入レル、即チ棄  
兒モ孤兒ノ一人ト見ルト云フヤウナ意味デ  
アルノデアリマスガ、是迄ハ棄兒ト云フモ  
ノヲ認メテ國家ガ扶育シテ居ラタノガ、今度  
ノ法律デハ棄兒ト云フモノヲ認メルト云フ  
コトハナクナッテ仕舞フノデアリマスガ、其  
點ハドウデスカ、ソレカラ明治六年ノ太政官  
布告第七十九號ト云フモノニハ三ツ兒ト云  
フモノヲ認メテ居ル、一家デ貧困ノ者ガ三  
ツ兒ヲ生ンダ時、雙兒マデハ認メテ居ラヌ  
ヤウデスカ、三ツ兒ト云フモノヲ生ンダ時  
ニハ、昔ノコトデゴザイマスカラ、タッタ一  
時金五圓ヲ給スル、今日デハ五圓バカリデ  
ハ仕方ガアリマセヌガ、其頃デハ、明治六年  
頃デハ五圓ト云フ金ヲ給サレテ、三ツ兒ト  
云フモノハ珍ラシイモノデアアルカラ、扶育  
シテヤラウト云フ趣旨ダッタラウト思ヒマ  
スガ、コンナコトデハ時勢ガ違フカラ今度  
ノ法律ハマルデ認メナイノデアアルト云フコ  
トデアリマスガ、ソレカラ一番大キイノハ  
明治七年ノ太政官達ノ第百六十二號恤救規  
則ニ依リマスト、七十歳以上、十五歳未滿  
ノ者ハ一箇年ニ米一石八斗ヲ給スル、又獨  
身者デ病氣ノ者ニハ、男ハ三合、女ハ二合ト

云フコトノ違ノヤウデアリマスガ、今度ハ  
棄兒ト云フモノヲ認メテ居リマセヌガ、棄  
兒ト云フモノハ即チ十三歳以下ノ幼者ト云  
フ方ノ中ニ入ルモノトシテ、之ヲ收容ス  
ル場所ハ孤兒院ナドヘ主ニ入レル、即チ棄  
兒モ孤兒ノ一人ト見ルト云フヤウナ意味デ  
アルノデアリマスガ、是迄ハ棄兒ト云フモ  
ノヲ認メテ國家ガ扶育シテ居ラタノガ、今度  
ノ法律デハ棄兒ト云フモノヲ認メルト云フ  
コトハナクナッテ仕舞フノデアリマスガ、其  
點ハドウデスカ、ソレカラ明治六年ノ太政官  
布告第七十九號ト云フモノニハ三ツ兒ト云  
フモノヲ認メテ居ル、一家デ貧困ノ者ガ三  
ツ兒ヲ生ンダ時、雙兒マデハ認メテ居ラヌ  
ヤウデスカ、三ツ兒ト云フモノヲ生ンダ時  
ニハ、昔ノコトデゴザイマスカラ、タッタ一  
時金五圓ヲ給スル、今日デハ五圓バカリデ  
ハ仕方ガアリマセヌガ、其頃デハ、明治六年  
頃デハ五圓ト云フ金ヲ給サレテ、三ツ兒ト  
云フモノハ珍ラシイモノデアアルカラ、扶育  
シテヤラウト云フ趣旨ダッタラウト思ヒマ  
スガ、コンナコトデハ時勢ガ違フカラ今度  
ノ法律ハマルデ認メナイノデアアルト云フコ  
トデアリマスガ、ソレカラ一番大キイノハ  
明治七年ノ太政官達ノ第百六十二號恤救規  
則ニ依リマスト、七十歳以上、十五歳未滿  
ノ者ハ一箇年ニ米一石八斗ヲ給スル、又獨  
身者デ病氣ノ者ニハ、男ハ三合、女ハ二合ト

云フコトノ違ノヤウデアリマスガ、今度ハ  
棄兒ト云フモノヲ認メテ居リマセヌガ、棄  
兒ト云フモノハ即チ十三歳以下ノ幼者ト云  
フ方ノ中ニ入ルモノトシテ、之ヲ收容ス  
ル場所ハ孤兒院ナドヘ主ニ入レル、即チ棄  
兒モ孤兒ノ一人ト見ルト云フヤウナ意味デ  
アルノデアリマスガ、是迄ハ棄兒ト云フモ  
ノヲ認メテ國家ガ扶育シテ居ラタノガ、今度  
ノ法律デハ棄兒ト云フモノヲ認メルト云フ  
コトハナクナッテ仕舞フノデアリマスガ、其  
點ハドウデスカ、ソレカラ明治六年ノ太政官  
布告第七十九號ト云フモノニハ三ツ兒ト云  
フモノヲ認メテ居ル、一家デ貧困ノ者ガ三  
ツ兒ヲ生ンダ時、雙兒マデハ認メテ居ラヌ  
ヤウデスカ、三ツ兒ト云フモノヲ生ンダ時  
ニハ、昔ノコトデゴザイマスカラ、タッタ一  
時金五圓ヲ給スル、今日デハ五圓バカリデ  
ハ仕方ガアリマセヌガ、其頃デハ、明治六年  
頃デハ五圓ト云フ金ヲ給サレテ、三ツ兒ト  
云フモノハ珍ラシイモノデアアルカラ、扶育  
シテヤラウト云フ趣旨ダッタラウト思ヒマ  
スガ、コンナコトデハ時勢ガ違フカラ今度  
ノ法律ハマルデ認メナイノデアアルト云フコ  
トデアリマスガ、ソレカラ一番大キイノハ  
明治七年ノ太政官達ノ第百六十二號恤救規  
則ニ依リマスト、七十歳以上、十五歳未滿  
ノ者ハ一箇年ニ米一石八斗ヲ給スル、又獨  
身者デ病氣ノ者ニハ、男ハ三合、女ハ二合ト

云フコトヲ一日ニ給スルト云フノガ此恤救規則ノ主ナルコトデアルヤウデアリマスカ、今度ノ規則ニ依リマスト、此七十歳以上ト云フヤツヲ六十五歳以上ト改メ、十五歳以下トアルヤツガ十三歳以下ト短縮セラレタ、老人ノ方ハ少シ緩ヤカニナリ、子供ノ方ハ二年デモ損ヲシテ居ルト云フ形ニナルデアリマス、獨身者デ病氣ノ云々ト云フコトハ四號ノ中ニ含ムモノデアッテ、獨身者ト必ズ書カナクテモ宜イデヤナイカト云フ御趣意ダラウト思ヒマスカ、サウ云フ積リデアルカドウカ、ソレカラ行路病人及死亡人取扱法ト云フモノガ明治三十二年ノ法律第九十三號デ出テ居ルヤウデアリマス、

是ハイクラカ新シクナッテ居ルカラ、其行路病人死亡人ト云フモノハ此法律ノ支配ヲ受ケズニ矢張り依然トシテ此明治三十二年ノ法律第九十三號ニ依ッテ行ク、此救護法ト兩立シテ行クト云フ御考ヘノヤウデアリマスカ、或ル場合ニハ行路病人、死亡人ト云フヤウナモノハ：死亡人ハ別デアリマスカ、行路病人ト云フモノハ此救護法第一條ニ掲ゲテアル各號ノモノト、ドチラヘツケタラ宜イカト云フヤウナモノガ段々出来テ來ハセヌカト思フノデアリマス、偶地方ノ養老院ナドヘ行ッテ見マスト、行路病人ガ非常ニ多數ヲ占メテ居ル所ナドガアル、デスカラ、寧ろ新タニ法律ヲ制定ナサ

ルナラバ、行路病人ヲモ此中ヘ入レタ方ガ宜クハナカッタカ、行路病人ナドト云フ言葉ガ一體封建時代ノ風ヲ承ケテ居ッテ、旅人ナント云フモノガ少イ、餘リ旅人ト云フモノガ澤山ナクナツタ場合、舊藩時代ノ制度カラ沿革シテ來テ、維新ノ初ニ行路病人ノ取扱ナント云フコトガ始ッテ、ソレカラマア三十二年ニ新ニ法律ヲ作ラレタモノデアリマスカ、此救護法ト云フモノガ出ルナラバ、此中ニ行路病人ヲ包含シタ方ガ便利デナイカト思フノデアリマス、此點ニ付テ御説明ヲ願ヒマス

○政府委員(長岡隆一郎君) 只今御質問ノ

中第一ノ點、即チ第一條ニ列舉シテ居リマスルモノダケヲ救助シテ、其家族ニ及バヌ、詰リ足手纏ヒガアル場合ニ、足手纏ダケ救助スルト云フコトニ止メルガ可イカ、惡イカ、是ハ要スルニ程度ノ問題ニナリマスカ、本法デ稍、御質問ノ趣意ヲ認メテ居リマスノハ第十二條ダケデアリマシテ、乳飲兒ガ居宅救助ヲ受ケマスカル場合ニハ其哺育上必要アル場合ダケニハ、併セテ其母ハ救護スル、詰リ此場合ニ附近ニ適當ナ託兒所デモアレバ、可シイノデアリマスケレドモ、然ラザル場合ニハ、乳飲兒ヲ放ッテ居ッテ、母ダケ働キニ出ヨト云フコトモ無理ナ問題デアリマシテ、幼者ノ保護ト云フコトハ重大ナル問題デアリマスカ、居宅救護ヲ受ケ

ル場合、哺育上必要ナル場合ニハ、併セテ其母ヲモ救護スルト云フコトヲ認メテ居ルダケデ、其他ノ點ハ大體御質問ノアル通りデアリマス、ソレカラ棄兒迷兒ノ御話デゴザイマスカ、是ハ矢張り御質問ニゴザイマシタヤウニ、大體第一條第二號ノ中ニ包含サレテ居ル積リデゴザイマシテ、從來ノ法令ニ棄兒ト迷兒ノ區別ハアリマスカ、實際ノ適用ニ於テハ棄兒ト迷兒ノ區別ハ實際ニ見分ガ困難デアリマス、棄兒ト迷兒、迷兒即棄兒ト云フ場合ガ多イノデアリマスカ、併シ御質問ノ中ニアリマシタヤウニ、孤兒院ニ收容スルト云フコトハ、成ベク例外ニ致シタイト考ヘマスノハ、本法ニ於テ居宅救助ヲ原則ト致シテ居リマスカラ、棄兒ニ致シマシテモ、迷兒ニシマシテモ適當ナ委託ヲスベキ家ガアリ、適當ナ引取ル家庭ガアリマスカレバ、假令ソレニ國費ヲ支給シマシテモ、成ベク暖イ家庭ニ於テ救助ヲ受ケサセタイト云フノガ、本法ノ趣旨デアリマス、併シ其棄兒迷兒以外ノ場合デアリマシテモ、兩親ガ虐待ノ常弊ノアル者ト云フヤウナモノハ居宅救助モ出来マセヌカラ、例外ノ場合ニハ孤兒院等ニ收容ヲ致サナケレバナラヌト思ヒマスカ、併シ成ベク院内收容ト云フコトハ例外ト致シマシテ、棄兒デアリマシテモ、ヤハリ之ヲ育テ、見タイト云フ家庭ガアリマスカレバ、成ベク

サウ云フ所ニ委託シテ、其處デ育テルト云フコトヲ原則トシタイト考ヘテ居リマス、ソレカラ三兒ノコトノ獎勵金デゴザイマスカ、是ハ實ハ其當時ノ立法ガドウ云フ原因デ獎勵金ヲ與ヘタモノカ、私率直ニ申上デマスト能ク了解イタシテ居ラナイノデゴザイマスカ、ヤハリ人口増殖ト云フヤウナ點カラ、三兒ヲ産ンダ者ニ獎勵金ヲ與ヘテ、生活ヲ救助スルト云フ趣旨デハナイカト適ッテ想像イタスノデアリマスカ、其點ニ付キマシテハ今回ハ之ヲ省キマシタ次第デアリマス、第三ノ御質問ノ現行法ニ於テハ七十歳以上ノ老者、十五歳以下ノ幼者ト云フコトヲ多少變更シテ居ル、斯ウ云フ御趣旨デゴザイマスカ、從來此養老院等ニ收容イタシテ居リマスル實績ヲ見マスト、成程七十歳ヲ過ギテモ、隨分饒樂タル壯者ヲ凌グ者モゴザイマスケレドモ、六十四歳ヲ過ギマシテモ、最早老衰ノ爲ニ勞働能力ガ無イト云フ者モ相當アリマスノデ、出来得ベクンバ、六十歳以上ノ老衰者ト云フヤウニモ考ヘマスケレドモ、併シ一舉ニシテ十年年齢ヲ引下ゲルト云フコトモ餘リ急激ナ變革ノヤウニモ思ハレマシテ、五年ダケ年齢ヲ引下ゲマシテ、六十五歳以上デアッテ、而モ老衰ノ爲ニ勞働能力ノ無イ者ト云フコトニ規定イタシマシタ趣旨ニ外ナラヌノデゴザイマシテ、十五歳ト云フノハ、サウ云フ

規定ゴザイマシタガ、是ハ途中ニ改正サレテ居ルサウデゴザイマシテ、現行法ハ矢張り十三歳ニナッテ居ルサウデアリマス、是モ工場労働者最低年齢等ノ關係カラ云ヒマスト、十四歳マデニシタイト云フ意見モゴザイマシタケレドモ、マア現行法位ニ止メテ置イタガ然ルベキデアラウト云フヤウナコトカラ、斯様ニ据置キマシタ次第デアリマス、又現行法ハ獨身者ト云フコトニ付テ非常ニ嚴シイ制定ヲシテ居リマスケレドモ、必ズシモ獨身者ニ限ル必要ハナイノデ、夫婦デアリマシテモ生活ノ出来ナイ者ニ對シテハ扶助ヲ與ヘルコトガ當然デアル、妻帯イタシテ居ルモノハドチラカ稼ゲルモノデアルト云フ假定ノ下ニ立法ヲ致スト云フコトモ少シク殘酷デハナイカト考ヘマシテ、獨身者ノ規定ハ除キマシタ、最後ノ御質問ノ行路病人ノ規定デゴザイマシタガ、是ハ各地ノ養老院ヲ御視察ニナリマシタ結果、御氣付キニナリマシタコトハ、是ハ私共モ實ハ赤裸々ニ申上ゲマシテ、其通リト申上ゲル外ハナイ、東京市ノ養老院ナドニ於キマシテモ實際三年モ四年モ救助シテ居ル者ヲ矢張り行路病人ノ扶助ニ依テ救助シテ居リマス、其様ニ申上ゲマスト、現行ノ規則ガ不備ナ爲ニ救貧法ニ依テ救恤スベキモノヲ無理ニ行路病人ト云フコトノ名稱ニシテ、行路病人ノ取扱規定ニ依テ養老院ニ收

容シテ居ルト云フ例ガ相當ニアリマス、殊ニ東京ノ如キハサウ云フ例ガアルノデアリマス、是ハ委員會ノ席上デスカラ率直ニ申上ゲマシタノデ現在ノ東京府ノ取扱ガ不適當デアルト云フ御叱リヲ受ケマスト、私ハ何トモ申上ゲヤウガナイノデアリマシタガ、實際行路病人ノ取扱規則ハ廣ク行ハレ過ギテ居ルト云フ嫌ヒガアルノデアリマシテ、本法ノ規定ガ幸ニ兩院ノ御協賛ヲ得テ法律トナリマシレバ、現在行路病人ノ取扱規則ヲ廣ク解釋シ過ギテ扱ッテ居ル病者モ自然本法ノ被救護者ノ中ニ入ッテ來ルト考ヘマス、併シソレハ別ト致シマシテ、行路病人ノ取扱ヒト致シマシテハ之ヲ其規則自體ノ目的トシテ居リマスル通りニ解釋イタシマスルナラバ、是ハ此救護法ト其最初目的ヲ異ニ致シテ居リマスルカラ、是ハ兩立シテ存在シテ居リマシテ差支ヘナイモノト考ヘマシテ今回ノ提案ニ付キマシテハ此行路病人ノ取扱規則ニ付キマシテハ其儘之ヲ活カシテ置イタヤウナ次第デゴザイマス

○阪本鈺之助君 只今ノ御説明ニ依リマスト、行路病人トシテ扱ッテ居ッタノヲ成ルベク此本法ノ方ニ依ルト云フコトニナリマスカラ、相伴フヤウニナルト、斯ウ御取扱ヒナラウト、斯ウ云フノデスカ

○政府委員(長岡隆一郎君) ソレハ其實ハ私申上ゲ惡イコトヲ申上ゲタノデゴザイマスガ、現在東京府當リデ取扱ッテ居リマスル行路病人トシテ取扱ッテ居ルモノハ、行路病人ノ取扱規則ニ依ルベカラザルモノヲ無理ニ行路病人ニ入レテ居ルノデゴザイマス、ソレハ外ニ救護スル方法ガナイモノデスカラ、無理ニ行路病人トシテ養育院ニ入レテ居ル、本來ナラバ此方へ來ベキ者デ、行路病人ニ入レベキ者デナイノヲ、見ルニ見兼ネテ行路病人ノ中ニ無理ニ押付ケテ居ルト云フ譯ニナッテ居リマスカラ、ソレハ本法ガ施行ニナリマシレバ、本法ノ中ニ這入ッテ來ルノデアラウト云フコトデ、是ハ實ハ樂屋話ノヤウナコトニナルノデ、其點一ツ御許シ願ッテ置キマス

○委員長(侯爵佐佐木行忠君) ソレデハ本日ハ是デ散會イタシマス

午後二時二分散會

出席者左ノ如シ

- 政府委員
- 社會局長官 長岡隆一郎君  
社會局部長 大野綠一郎君
- 委員長 侯爵佐佐木行忠君  
副委員長 阪本鈺之助君
- 委員
- 男爵木越 安綱君  
子爵野村 益三君  
田村 新吉君  
鶴澤 總明君  
若尾謹之助君  
大谷 尊由君